

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域社会の中で暮らすことの意味を理念に入れ、理念を目に付くところに掲げ、意識しやすいようにしている。月一回の全体会議で実践について話し合いを行っている。	地域で暮らし続けるために、職員はホーム独自の理念「ありのままに」、「一緒に、ゆっくり、楽しく」を共有し実践している。全体会議では実践状況を振り返り話し合いを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加している。地区の育成会と定期的に交流会を行い、地域ボランティアの受け入れも積極的に行っている。	自治会に加入し区費を納めている。回覧板がありホームの様子を掲載した広報誌を区内で回覧していただき、ホームの活動をお知らせしている。地域で行われる行事や防災訓練、しめ縄作り等にも参加している。また、地域の子供達との接点として育成会との交流、中学生職場体験の受け入れなどを積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉体験学習や施設見学者の受け入れを行い、職員説明、質疑応答を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回会議を開催し、ホームの実情を理解していただき、出された意見を職員間で共有し、多くを学ばせてもらっている。	利用者、家族、区長、民生委員、市福祉課職員、地域包括支援センター職員で構成され、年6回、定期的で開催されている。活動状況やホームでの様子等を報告し意見交換を行っている。出された意見は一つ一つ具体的な形にして取り組み、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席していただき、ホームの取り組み等報告できている。市町村の立場からの意見もいただいている。	主には運営推進会議を通じて市担当者に報告し助言をいただいている。認定更新の際には市からの調査員に利用者のホームでの様子を伝えるなど協力・連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯のため玄関の施錠は行っている、その他の身体拘束は行っていない。身体拘束について理解し、しないケアを実践している。	身体拘束について正しい理解を深めるため、法人の内部研修に参加し、拘束をしないケアに取り組んでいる。一人ひとりの傾向や癖を掴み対応することにより玄関その他の施錠をせず見守りを重点に支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修に参加し、知り得た情報をミーティングにて報告することで、周知徹底を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングにて学ぶ機会を持ち、共有を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	落ち着いた雰囲気の中で十分な時間を取り、説明し疑問に答えている。契約後も意見や質問を受ける態勢をつくり、不安のないよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会には、第三者委員も参加、直接話が出来る時間を設けている。日頃は玄関に意見箱を置いたり、面会時、職員に意見を言いやすい関係作りを行い、実際にいただいた意見は反映できるような体制ができています。	意見の言い易い関係づくりを常に心がけている。家族会や運営推進会議では話し易い雰囲気作りに取り組んでいる。玄関には意見箱も設置されているが、投函されていたことはなく、家族来訪時に口頭で日常の様子を知らせたり要望などをお聞きしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の全体ミーティングでは、活発な意見が出され、運営に活かされている。毎日の業務でも職員の意見や提案を話し合い運営に反映している。	全体会議や日々の申し送り等で出された意見は建設的に話し合い運営に活かしている。管理者は職員の声に耳を傾け日頃からコミュニケーションを図るよう心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	精神的、体力的なことも考慮しシフト作りしており、職員個々に担当利用者、役割を持ってもらうことで、やりがいを持って働くよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部の研修に参加できるよう、告知すると共に、職員の力量をみながら促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所との交流の機会は多くあり、良い刺激となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の気持ちに寄り添うことを心がけ、会話を多く持つことで、言葉の中にある思いや、希望、不安の把握、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来やすく、話しやすい雰囲気作りを心がけ、家族の思いを知ることができるよう、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いの中で何を必要としているかを、知り対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を利用者主体とし、相談しながら活動している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の情報を定期的に送付し、共有する中で、いつでも訪れやすい雰囲気作りを行っている。協力しともに支えることを常にお願している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人が訪問しやすい環境を作っている。電話での交流も行っている。面会時には一緒に写真をとり思い出作りを行っている。	友人・知人・親戚などの面会者が来訪し易い雰囲気を作り、交流が途切れないよう支援をしている。ホーム内では利用者間の新たな人間関係が築かれており、食事やお茶の時間に他の利用者の顔が見えないと心配をしているという。調査当日も「良かったねー、出てこられて・・・」と声を掛け合っていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに認め合ったり、助け合ったりと、利用者同士の関係作りに留意している。孤立することのないよう、職員が間に入り、安心できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了した家族も来所して下さり、野菜等のおすそ分けをいただくなど良い関係が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の様子や会話から、また必要に応じて家族も交え、利用者の希望、思いを汲み取り、職員間で情報を共有し、ケアにつなげている。	普段から会話を多く持ち「思い」を把握している。日々の支援の中で自己決定が出来るように複数の選択肢を上げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	書式を使い生活暦の把握を行い、家族からも様々な情報を得られるよう関係を作っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で、利用者の言葉、表情から思いを捉え、記録に残し、希望すること、こうありたい願いを、職員が周知し、満足できる生活につなげられるよう努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、担当者・ケアマネを中心に作成し職員会議で意見を求め反映している。利用者や家族に定期的に意向を聞き、プランに)反映させている。	定期あるいは随時のモニタリングを実施し現状に即した計画になるよう話し合いを行っている。利用者、家族の希望や意向、状態に合わせて柔軟に対応している。短期3ヶ月、長期12ヶ月を基本とし、状態変化に合わせてたり、利用者や家族の意見・意向を反映させ、現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は、昼夜に分け、日々の様子やプランの実施状況について記入、職員間の情報の共有、ケアの実践につなげ、ニーズは何か常に把握できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の体調の変化に伴い、家族の意向を聞きながら、対策やサービスの変更も都度柔軟に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、スーパー、美容院など地域資源の活用を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は家族、利用者の希望で行っている。協力医院による月一回の訪問診療があり、緊急時は電話にて指示を得ることができ、連携がとれている。	かかりつけ医への受診は利用者の状態を把握する大切な機会であり、可能な限り家族の付き添いをお願いしている。協力医による訪問診療（内科、歯科）、歯科衛生士の定期訪問もあり、法人内の看護師にも常に連絡相談ができる体制が整っており、適切な医療が受けられるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護が入った場合、職員間で情報共有ができるよう記録に残し、周知徹底に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホームでの今までの生活の情報を提供し、様子を見に行くなど、状態把握できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者、家族が何を希望しているのか、協力医院の医師、訪問看護師も交え話し合い、ホームとして何ができるか方針を決め、支援できるよう努めている。	重度化した場合や終末期のあり方については契約時に説明している。高齢化に伴い重度化が予測されることもあり、事前準備や心構えとして外部研修へ参加したり内部研修として勉強会を開催し、「重度化、終末期」について全員で取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習に職員全員が参加している。繰り返し訓練を行っていくことで、身に付けていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年三回、火災、地震、昼夜を想定した訓練を実施している。年一回は消防署の協力を得て、地域の方々、家族にも参加いただき意見をいただいている。	利用者と職員の命を守ることを大前提に様々な場面を想定し訓練を行っている。9月には消防署の立会いの下、地域住民や家族の参加協力を得ながら本番さながらの訓練を行った。自主的に夜間想定訓練を行う等、利用者が安全に避難できる方法を全職員が身に付けている。建物は200年前の民家で、専門家に耐震性について確認した結果、問題は無いとの回答を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重は、常に意識し、言葉掛けなど日々の関わりを振り返り、尊厳を大切にしよう心がけている。利用者の表情から、些細なことでも気付くことができるよう心がけている。	職員ミーティングで「個人情報の保護について」話し合いを行って。年長者としての敬意を払い、一人ひとりの人格を尊重している。異性介護には特に気を遣い、本人の気持ちを尊重し自己決定のできるように言葉掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で、利用者の思いや希望を引き出せるよう努めている。また、押しつけにならないよう、意思を確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のメリハリを考え、基本的な流れはあるが、その時々希望に柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、洗顔時に身だしなみについて支援している。外出時服装など決められるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の食べやすい形状に配慮し、全員が同じ物を楽しんで食べられるように留意している。用意から片付けまで利用者が主導の場面を作るよう心がけている。	利用者の個々の力を最大限発揮できるように、準備から片付けまでの一連の作業を利用者が中心となっていくように支援している。「やってみよう気持ち」を引き出し、やりがいや自信が持てるような支援をしている。食事形態を工夫し、同じ献立を食べることができるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の把握に努め、体調の変化を早期に発見できるよう努めている。一人一人の力にあった援助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人に合わせた口腔ケアを行っている。うがいができない方には口腔用ウェットティッシュを使用し、ブラッシングが困難な方には仕上げの介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、状態を知った上で話し合い紙パンツから布パンツへの変更など支援している。	習慣やパターンを把握し自立に向けた支援を行っている。経済面、安全面等も考慮し時間帯や季節毎に排泄用品を使い分けている。身体状態に変化のある場合は関係者間で随時話し合い、本人に合わせた支援を検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の水分摂取、食事内容のバランス、毎日の体操で予防に取り組んでいる。必要に応じ薬の使用で便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決めず、おおよその順番をきめているが、本人の希望により変更できる状態である。入浴時間は体調を見ながら、本人の希望に沿っている。1日ほぼ2名ほどの入浴で、ゆっくり入っていただいている。	生活習慣や希望に合わせて対応している。異性介護は利用者の心情を汲み取り判断し、同性介護で対応している。入浴を拒む利用者もあるがチームで支援を行い安心して入浴をしていただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の就寝時間は決めず、寝たいときに寝ていただいている。午睡も本人の希望、体調をみての声かけにて休んでいただいているが、メリハリのある生活が送れるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一覧表を作り、薬の理解、把握に努めている。状態に合わせて、かかりつけ医と相談して、変更のある場合は、記録に残し、職員間の周知徹底を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に役割を持っていただき、生きがいにつながるように支援している。本人の希望、生活歴、家族の情報等から楽しみや満足感が得られるプランを立て実行している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の花を見に出かけたり、希望によりドライブ、美容院、喫茶に出かけている。法人内のお祭りにはご家族も参加していただいた。	行き付けの店への買い物に出掛けたり、庭先に洗濯物を干したり、また、天気の良い時には近所へ散歩に出掛けるなど、日常的な外出の支援が行われている。外気に当たり気分転換やストレスも解消している。春には花見(桜、ばら)、秋には紅葉狩り、また、喫茶店等に出掛けるなど五感を刺激する機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば、お金を持ち買い物できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りや電話は希望により行えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古民家という事業所の特徴を生かし落ち着いた霧囲気作りを心がけている。常に清潔であるように努め、季節の花の写真を家族が飾って下さるなど、生活感を感じ、居心地のいい空間を作るよう努力している。	ホーム内は日本家屋の良いところを残し、現代の和を取り入れた居心地の良い空間になっている。天井は吹き抜けで、むき出しになった梁は太く、200年の歴史が感じられる。明り取りの窓からは適度な自然光が差し込み丁度良い明るさが保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は一人になるスペースはないが、思い思いに過ごすことはでき、利用者同士で楽しめる場所は作られている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れた筆筒や写真、飾り物など置かれ、家族が本人のことを思い作られ、居心地のよい工夫がされている。	居室入り口の暖簾(のれん)をくぐると、使い慣れた家具や思い出の写真が飾られ、落ち着いて過ごせるように工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の動線を考え、使いやすいように配置等考えてある。安全については、手すりや足元の明かりを点けるなど、都度話し合い確認している。		